

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部

TEL.06(6762)9473 / FAX.06(6762)9487

近畿地域福祉学会 平成28年度大会を大阪で開催！

大会テーマ『実践者』から考える地域福祉の展望

は、7人から自由研究発表・実践活動報告があり、日ごろの研究成果・実践の課題を参加者同士で検証するよい機会となりました。

近畿地域福祉学会主催、府社協・大阪市社協・堺市社協・堺市社協共催による「近畿地域福祉学会平成28年度大会」が、12月17日、大阪社会福祉指導センターで開催され、210人が参加しました。

午前中に引き続き行われたパネルディスカッションでは、大阪人間科

午後の全体プログラムでは、まず初めに「近畿における地域福祉研究と実践の協働」と題した基調セッションが行われ、桃山学院大学の松端克文教授と関西大学の所めぐみ教授が軽妙な掛け合いのもと、近畿における研究と実践の歴史を振り返りました。また「実践を記録し、言葉にして伝えていくこと」で、実践の中で大切にしている価値（理念）が実践者同士、研究者と実践者、そして地域へと広がり、共感・共振が生まれる」との実践者に向けたメッセージがありました。



左から小野教授
石川准教授

学大学の石川久仁子准教授の進行により、大阪府立大学の小野達也教授をコメントーターに迎え、3人の実践者から貴重な報告がありました。

今回のパネルディスカッションでは実践者一人ひとりの地域福祉実践の出発点や転機（出会い）、これからの夢などに焦点を当て、実践上の悩みや醍醐味を語りました。



左から徳谷章子さん(ハートフレンド)・松葉智子さん(豊年福祉会)・高田浩行さん(真面目市社会福祉協議会)

3人の報告からは、「夢や理想をもち、それを仲間や地域関係者に発信し、語り合う」2人で、1組織で悩むのではなく、みんなで取り組む「ありのままに受け入れ、支えあえる関係や場づくりが大事」「一歩はみ出すことの大切さ」「何のため、という目的がはっきりしている」と繋がることができ、そこから新しい実践が生まれる」など、地域福祉の未来・可能性について、参加者一同で確認することができました。

マッセ・市民セミナー

「子どもの居場所づくりフォーラム」

「実践者から大切にしたい視点を学ぶ」

12月17日 180人が参加

府社協と大阪府市町村振興協会は、「子どもの貧困」が社会問題としてクローズアップされる中、こども食堂や学習支援、不登校支援など、子どもの居場所づくりに取り組む実践者を迎え、マッセ・市民セミナーを開催しました。



金澤准教授

はじめに、

桃山学院大学の金澤ますみ准教授から、

今の子どもたちの生活課題やその背景について説明があり、その後、動画「智の物語」を視聴し、相対的貧困としての子どもの貧困問題を共有しました。



左から、佐藤氏、田崎氏、谷山氏、中川氏、池田氏(とれぶりんか)、尾崎氏

続く実践者リレートークでは、佐藤遼さん(茨木市社協)、田崎由佳さん(やんちゃファミリーwith理事長)、谷山由里さん(交野市・旭小学校区福祉委員会)、

中川雄二さん(みんなで作る学校とれぶりんか代表)、尾崎敏子さん(岸和田市の地域ボランティア)の5人が報告。取り組み内容や活動を始めたきっかけ、大切にしていること、子どもたちに対する思いなどを、具体的な事例を交えて発表しました。

子どものニーズを起点に

全体まとめの中で金澤准教授は、「子どもの視点から考えること」、「居場所を無理なく、継続できるあり方の検討」、「居場所と学校との連携」、「住民の理解」の大切さを訴えました。

参加者からは「目の前にある事実に向き合い、取り組んでいくことが重要」、「子どもの居場所は、子どもやその子の家庭、地域の未来につながる」などの感想があり、子どものニーズを起点にして、地域での支えあいの輪を広げていくことの必要性を確認することができました。

※幸重忠孝作「貧困を背負って生きる子どもたち 智の物語 前編・後編」は子どもの貧困問題を「見える化」し、共に考えるきっかけづくりのために、ビジュアルノベルとして制作したもの。

府民児協連

一斉改選により
新体制へ

平成30年の

制度創設100周年へ向け

取り組み本格化

～人々に よりそい100年 これからも～

体制が決まりました。大阪で誕生した方面委員制度（民生委員制度の前身）は平成30年に創設100周年を迎えます。府民児協連としては、「人々に よりそい100年 これからも」というスローガンのもと、記念大会の開催や記念誌の発行をはじめ、さまざまな取り組みを本格的に進めていくことにしています。



藤原副会長・野口副会長・義之副会長
津村副会長・石原会長・新庄副会長

民生委員・児童委員は3年の任期で厚生労働大臣の委嘱を受け、地域住民の立場で、生活に関する困りごとの相談や支援を行っているっており、平成28年12月1日に、3年に1回の一斉改選が行われました。



このたびの一斉改選により大阪府内（政令指定都市は除く）では、7,812人が委嘱され、このうち新任委員は1,666人となっています。

とくに、府民へのPRについて、各市町村民児協から推薦されたメンバーによる「広報プロジェクトチーム」を立ちあげ、大阪府全体の広報活動について検討するとともに、各市町村民児協における広報・PR活動を積極的に展開していきます。

つながる ひろがる 地域福祉を支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介しています。

今回は、昨年12月の一斉改選で再任された、大阪府民児協連の石原欽子会長の日々の活動と想いをご紹介します。



大阪府民児協連会長
石原 欽子 さん

◎今、民生委員として取り組んでいる活動を教えてください。
民生委員の活動は声かけなどの見守りをはじめ多岐にわたります。どの活動も「住民の身近な相談役」



毎朝、小さな変化も見逃さないよう、登校する子どもたちを見守っています



地域の自主防災会等と連携して、要援護者避難訓練・研修を実施。災害時に力を発揮できる地域づくりを推進しています

◎認知症や児童虐待など社会的に孤立している人への支援を教えてください。
核家族化や地域のつながりの希薄化が進み、課題はわかりにくく、孤立している人も増えています。ひとり暮らし高齢者へは日常的な声かけからはじめて、サロンにお誘いするなど、1歩でも外に出てもらおうように働きかけています。専門的な支援につながっても、サービスの状況やようすをうかがい、本人に寄り添ったアドバイスも行っています。また、ネグレクトが疑わ

れる家庭には、子どもへのやさしい声かけと地域行事を通じての親子との交流から支援をすすめています。
◎民生委員としてのやりがいや大事にしてきた思い、今後について教えてください。
民生委員になって35年。たいへんなこともたくさんありました。しかし、住民から感謝されること、そして何より民生委員であった母が教えてくれた「地域の人を支援する」という役割の重要性と使命感、家族や周囲の支えがあり、これまで活動を続けてこられました。
平成30年の100周年に向け、PR活動を強化して、住民の理解を促進し、人材の発掘や委員自身のやりがいにつなげていきたいです。



高齢者のサロンにPTA育成会が参加協力。気になる親子との顔つなぎの場にもなっています